

[第1部 東京都全体の調査結果]

第2章 東京都全体の調査結果（設問別分析）

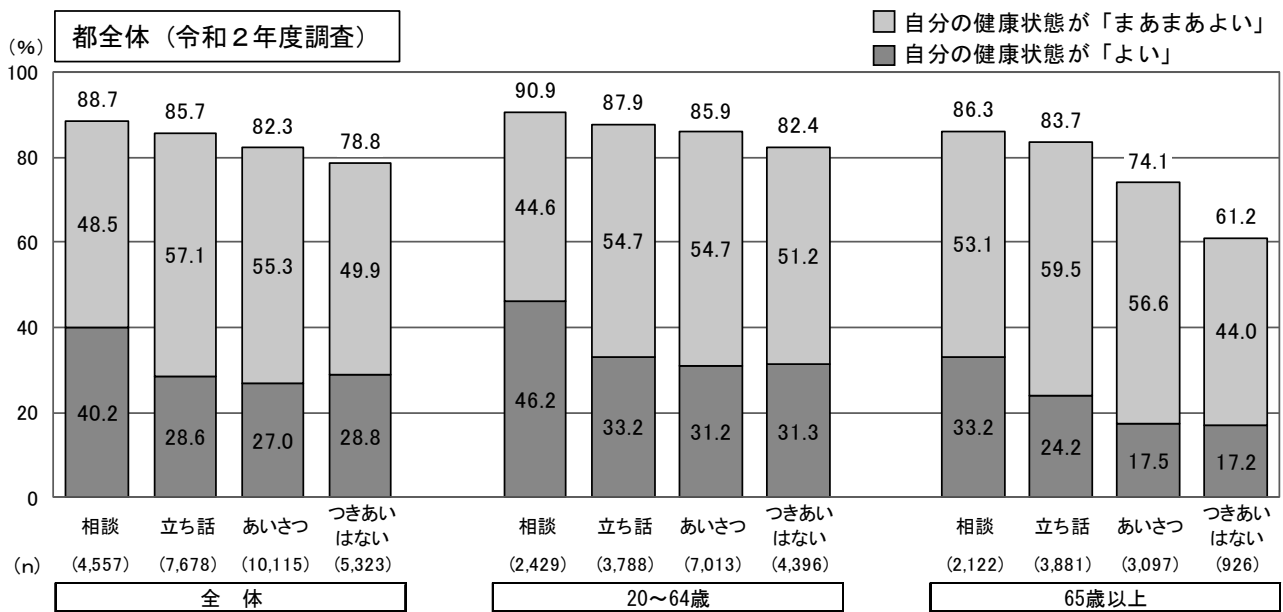


1 自分の健康状態に対する意識（地域の人とのかかわり状況別）（問1×問2）

＜自分の健康状態を「よい」と感じている人の割合は、地域の人とのかかわりが強いほど高い＞

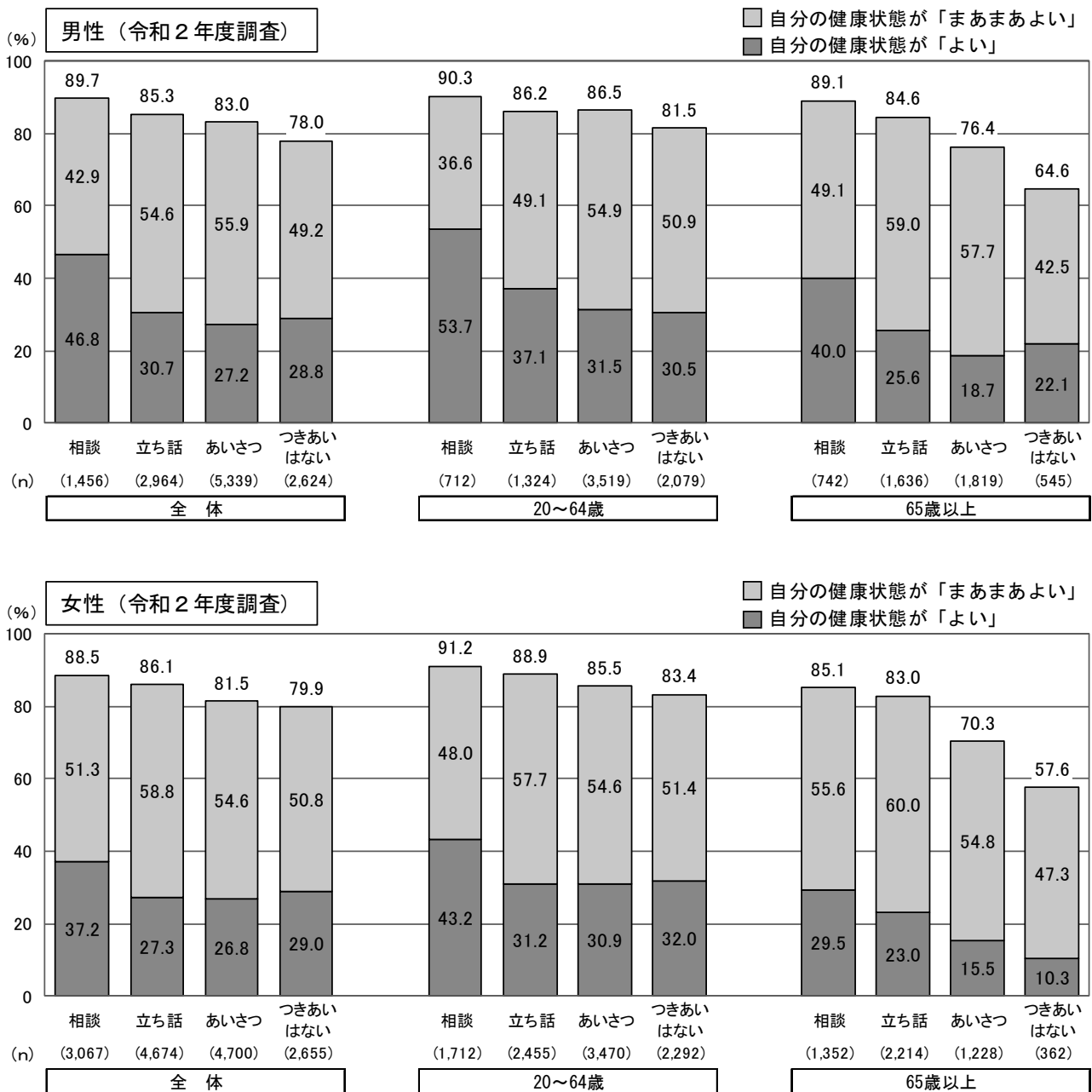
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、地域の人とのかかわり状況別にみると、都全体では、地域に「相談し合える人がいる」で88.7%、「立ち話をする人がいる」で85.7%、「あいさつをする人がいる」で82.3%、「つきあいはない」で78.8%と、かかわりが強いほど、自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。この傾向は65歳以上でより顕著にみられる。

図30 自分の健康状態に対する意識（地域の人とのかかわり状況別×都全体年齢2階級別）



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、地域の人とのかかわり状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、かかわりが強いほど、自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「相談し合える人がある」(89.1%)と「つきあいはない」(64.6%)との差が24.5ポイント、女性65歳以上では「相談し合える人がある」(85.1%)と「つきあいはない」(57.6%)との差が27.5ポイントと、65歳以上でその差が大きくなっている。

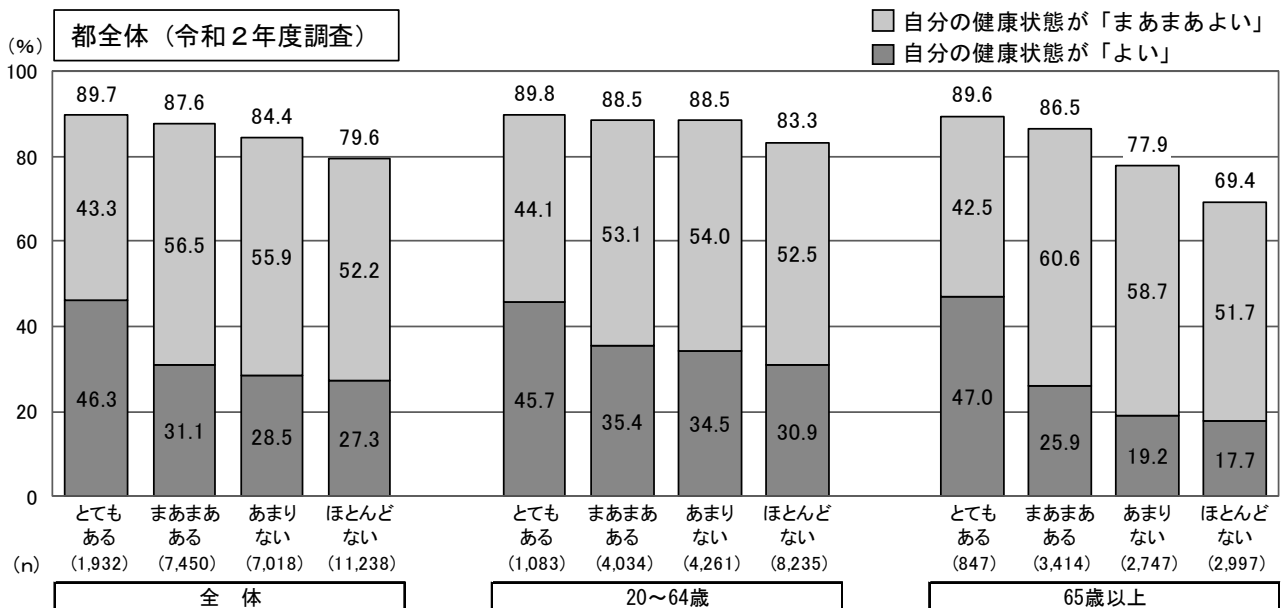
図31 自分の健康状態に対する意識（地域の人とのかかわり状況別×性・年齢2階級別）



2 自分の健康状態に対する意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別）（問1×問3）
 <自分の健康状態を「よい」と感じている人の割合は、地域で違う世代との交流の機会が多いほど高い>

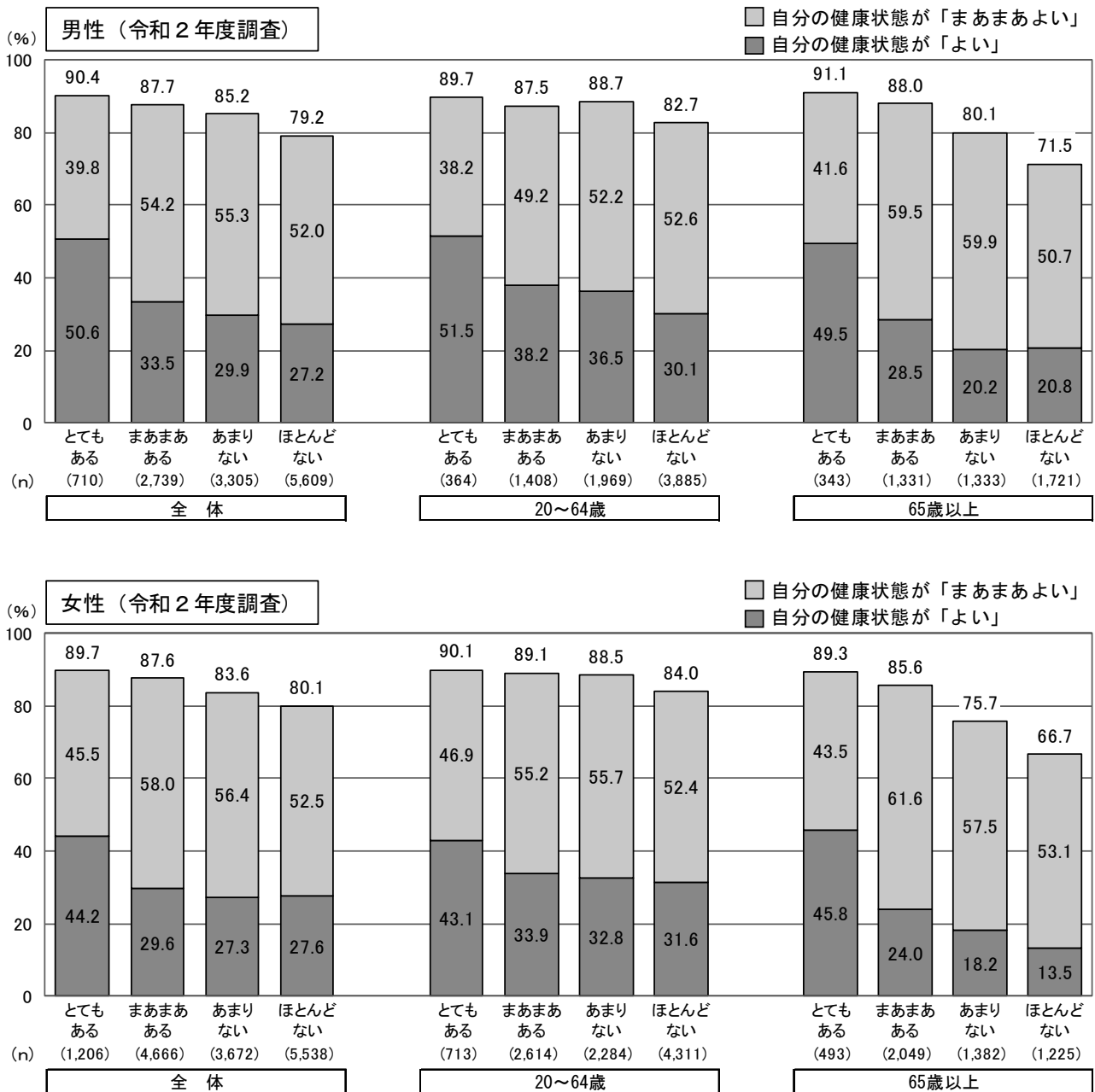
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別にみると、都全体では、交流が「とてもある」で89.7%、「まあまあある」で87.6%、「あまりない」で84.4%、「ほとんどない」で79.6%と、交流の機会が多いほど、自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。この傾向は65歳以上より顕著にみられる。

図 32 自分の健康状態に対する意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別×都全体年齢2階級別）



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、交流の機会が多いほど、自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「とてもある」(91.1%)と「ほとんどない」(71.5%)との差が19.6ポイント、女性65歳以上では「とてもある」(89.3%)と「ほとんどない」(66.7%)との差が22.6ポイントと、65歳以上でその差が大きくなっている。

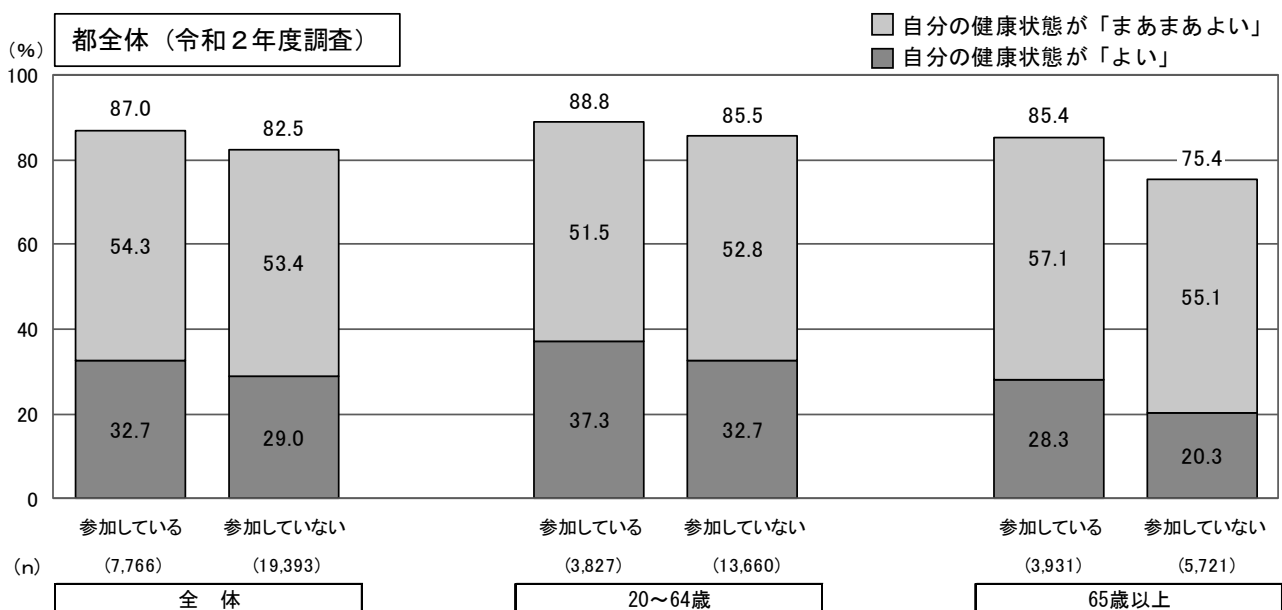
図33 自分の健康状態に対する意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別×性・年齢2階級別）



3 自分の健康状態に対する意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別）（問1×問5）
 <自分の健康状態を「よい」と感じている人の割合は、地域のボランティア活動や趣味のグループに参加している人で高い>

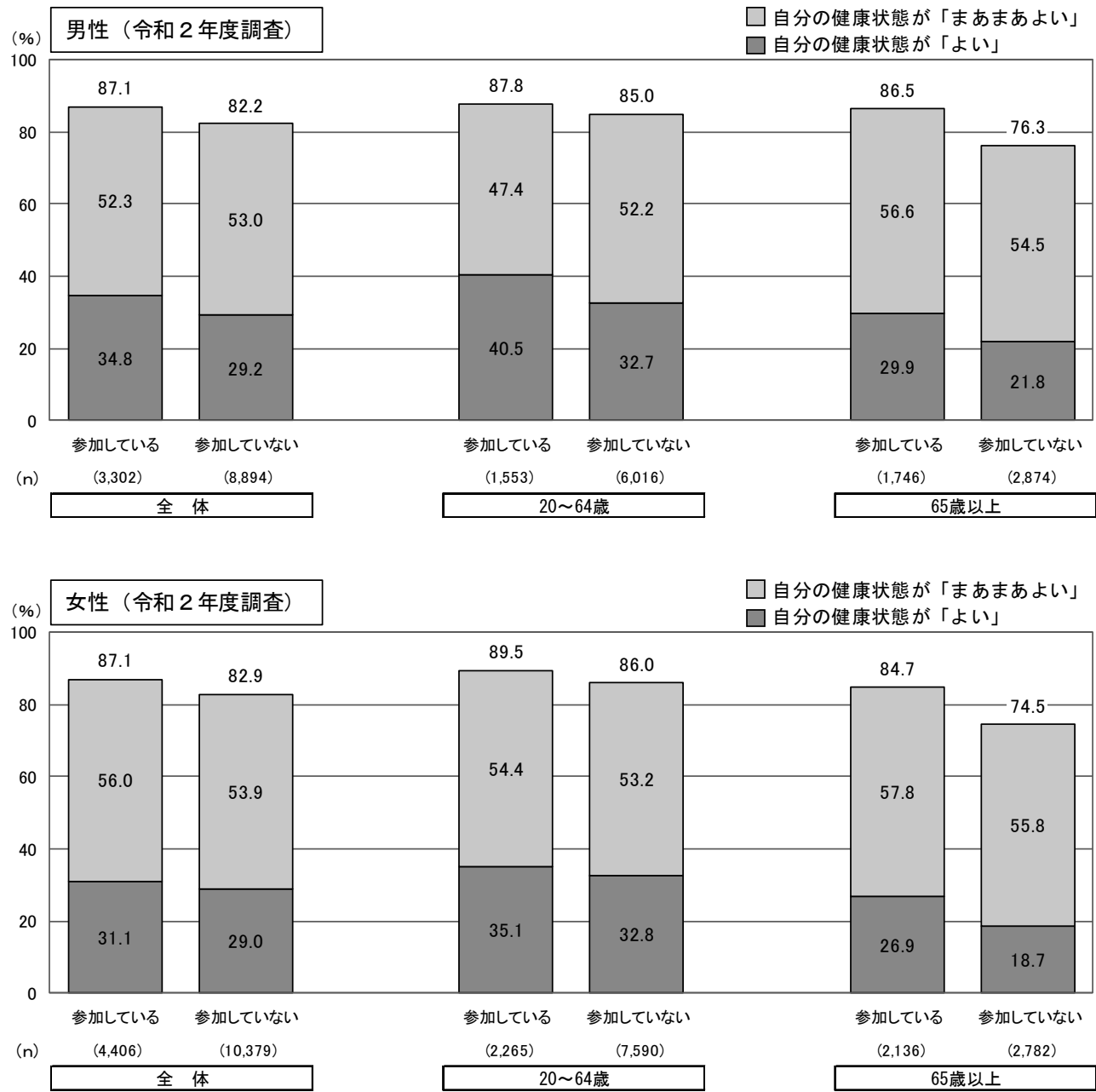
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別にみると、都全体では、「参加している」（87.0%）が「参加していない」（82.5%）より4.5ポイント高くなっている。なお、65歳以上では「参加している」（85.4%）が「参加していない」（75.4%）より10.0ポイント高くなっている。

図34 自分の健康状態に対する意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×都全体年齢2階級別）



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、活動等に「参加している」が「参加していない」より、自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「参加している」(86.5%)と「参加していない」(76.3%)との差が10.2ポイント、女性65歳以上でも「参加している」(84.7%)と「参加していない」(74.5%)との差が10.2ポイントと、65歳以上でその差が大きくなっている。

図 35 自分の健康状態に対する意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×性・年齢2階級別）

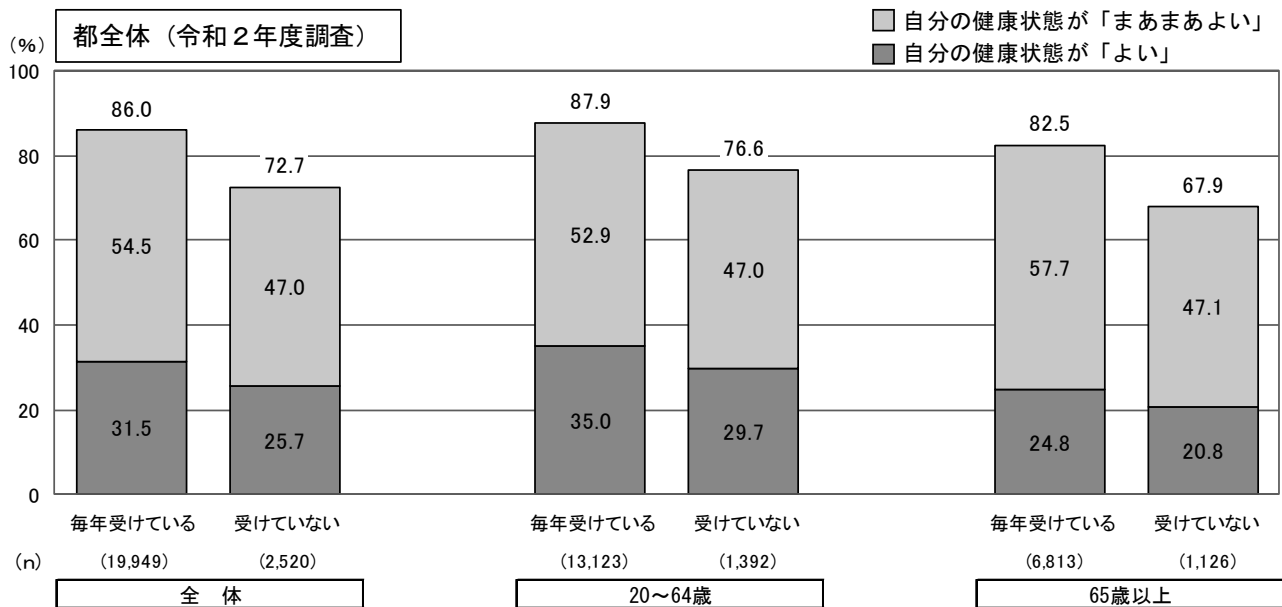


4 自分の健康状態に対する意識（健康診断の受診状況別）（問1×問7）

<自分の健康状態を「よい」と感じている人の割合は、健康診断を「毎年受けている」で高い>

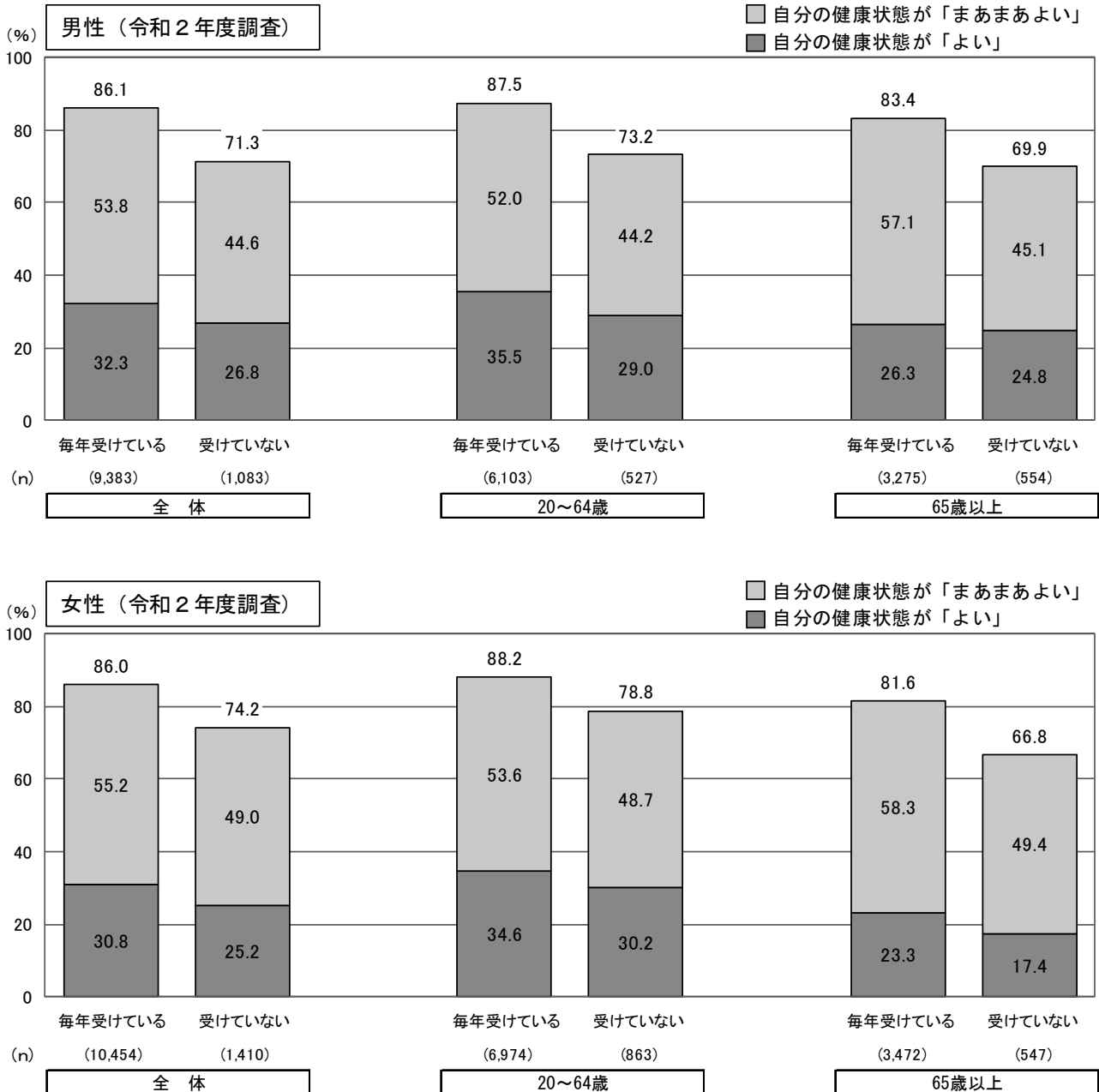
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、健康診断の受診状況別にみると、都全体では、健康診断を「毎年受けている」（86.0%）が「受けていない」（72.7%）より13.3ポイント高くなっている。また、65歳以上では「受けていない」が67.9%と低くなっている。

図36 自分の健康状態に対する意識（健康診断の受診状況別×都全体年齢2階級別）



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、健康診断の受診状況別に男女別で見ると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、健康診断を「毎年受けている」が「受けていない」より自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「受けていない」が69.9%、女性65歳以上では「受けていない」が66.8%と低くなっている。

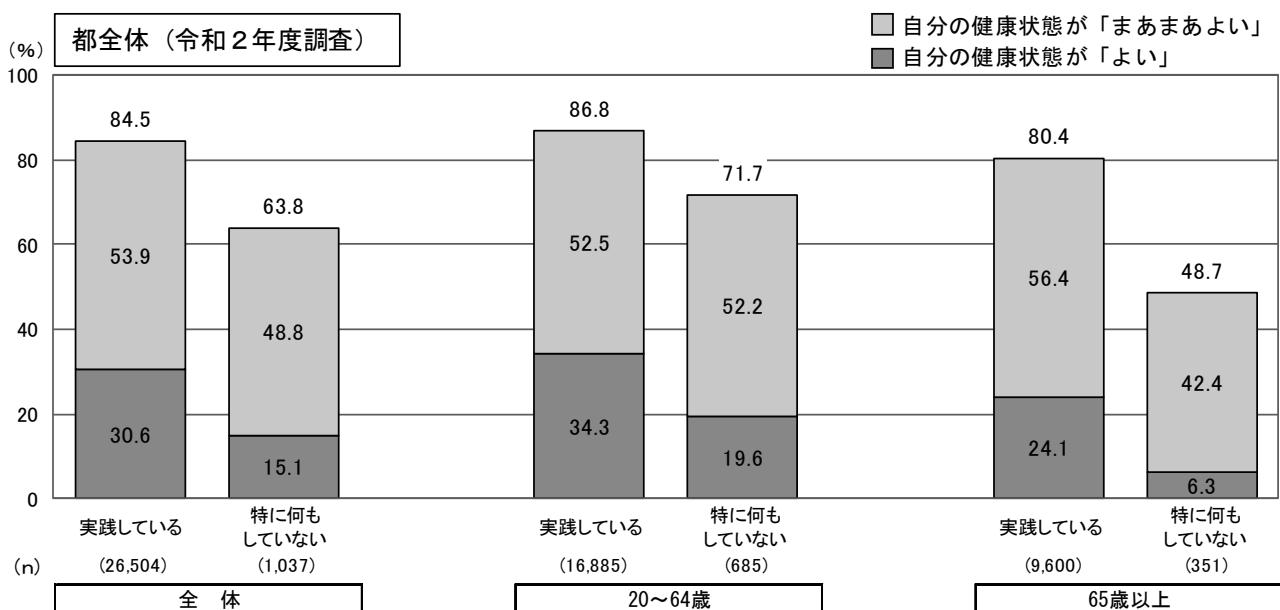
図37 自分の健康状態に対する意識（健康診断の受診状況別×性・年齢2階級別）



5 自分の健康状態に対する意識（負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況別）（問1×問8）
 <自分の健康状態を「よい」と感じている人の割合は、負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組を実践している人で高い>

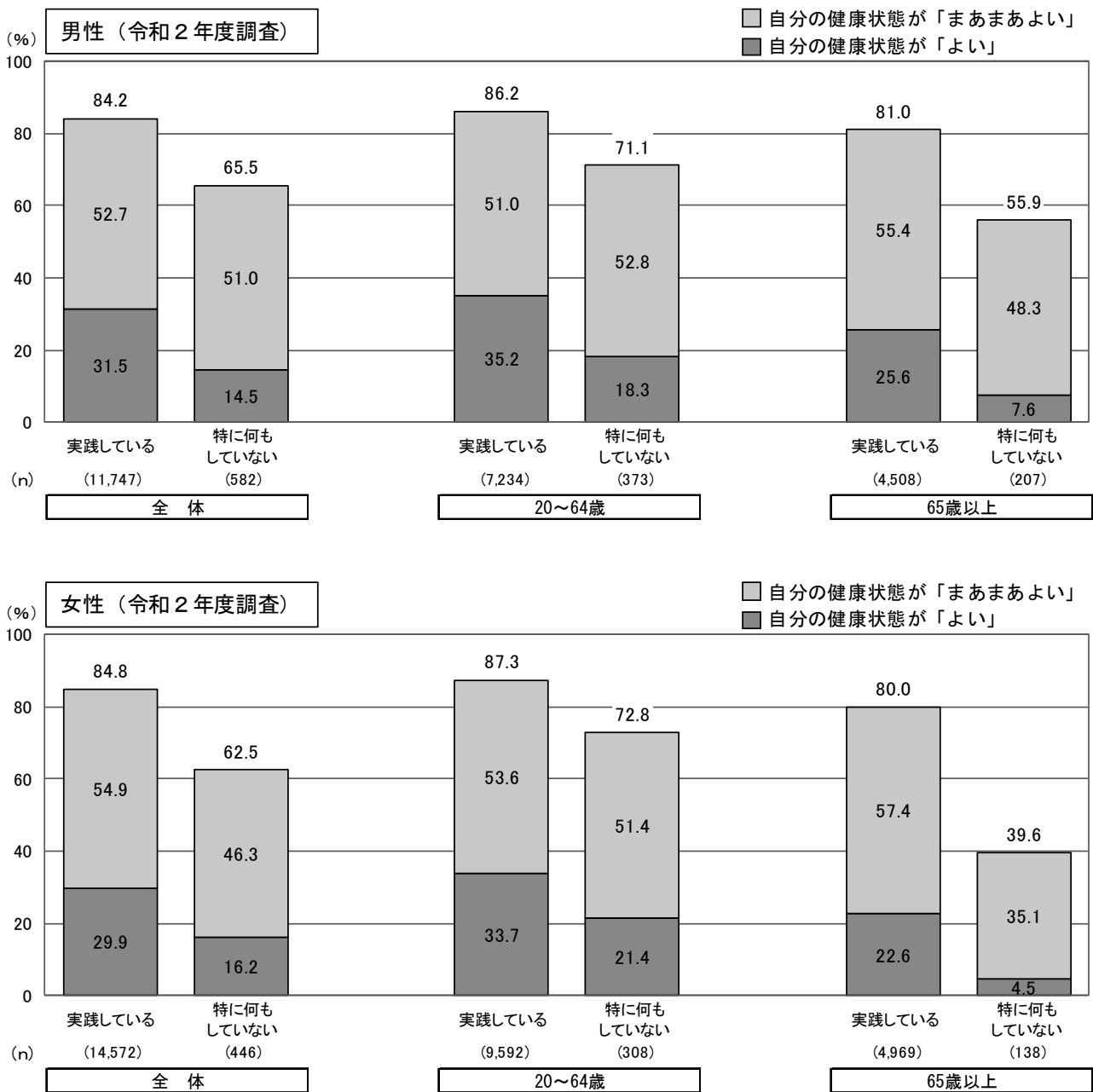
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況別にみると、都全体では、「実践している」（84.5%）が「特に何もしていない」（63.8%）より20.7ポイント高くなっている。なお、65歳以上では「実践している」（80.4%）が「特に何もしていない」（48.7%）より31.7ポイント高くなっている。

図38 自分の健康状態に対する意識（負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況別×都全体年齢2階級別）



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、「実践している」が「特に何もしていない」より自分の健康状態をよいと感じている人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「実践している」(81.0%)と「特に何もしていない」(55.9%)との差が25.1ポイント、女性65歳以上では「実践している」(80.0%)と「特に何もしていない」(39.6%)との差が40.4ポイントと、65歳以上でその差が大きくなっている。

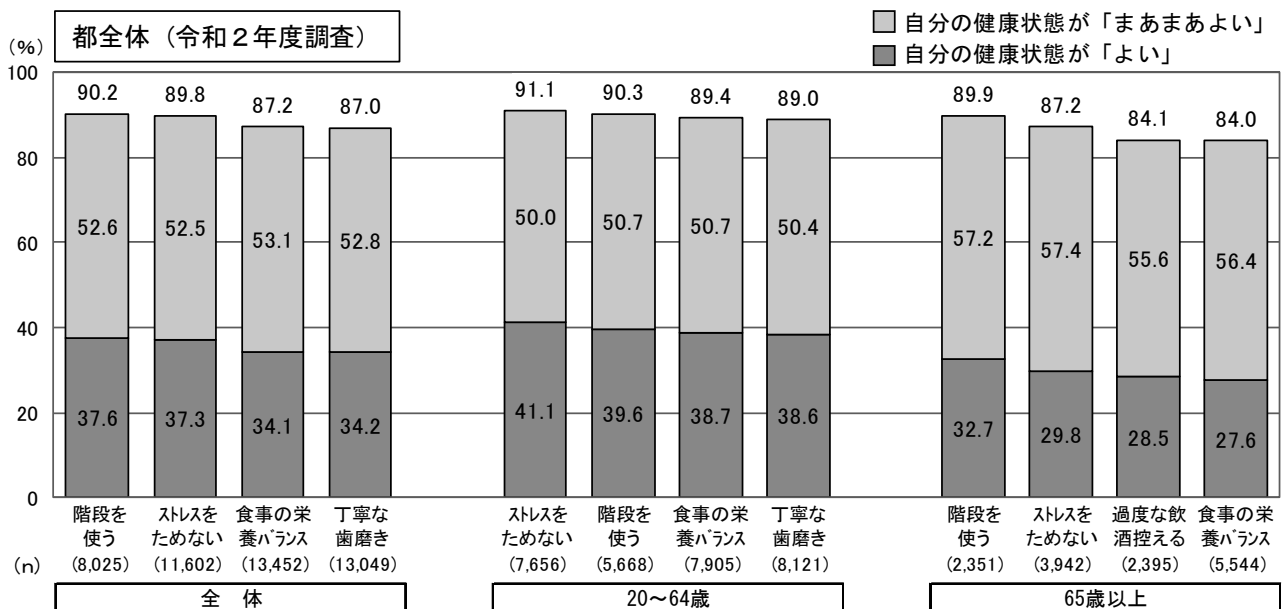
図39 自分の健康状態に対する意識（負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況別×性・年齢2階級別）



6 自分の健康状態に対する意識(負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況/取組別)(問1×問8)
 <自分の健康状態を「よい」と感じている人の負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組は、「エスカレーターやエレベーターの代わりに階段を使うようにしている」が最も高い>

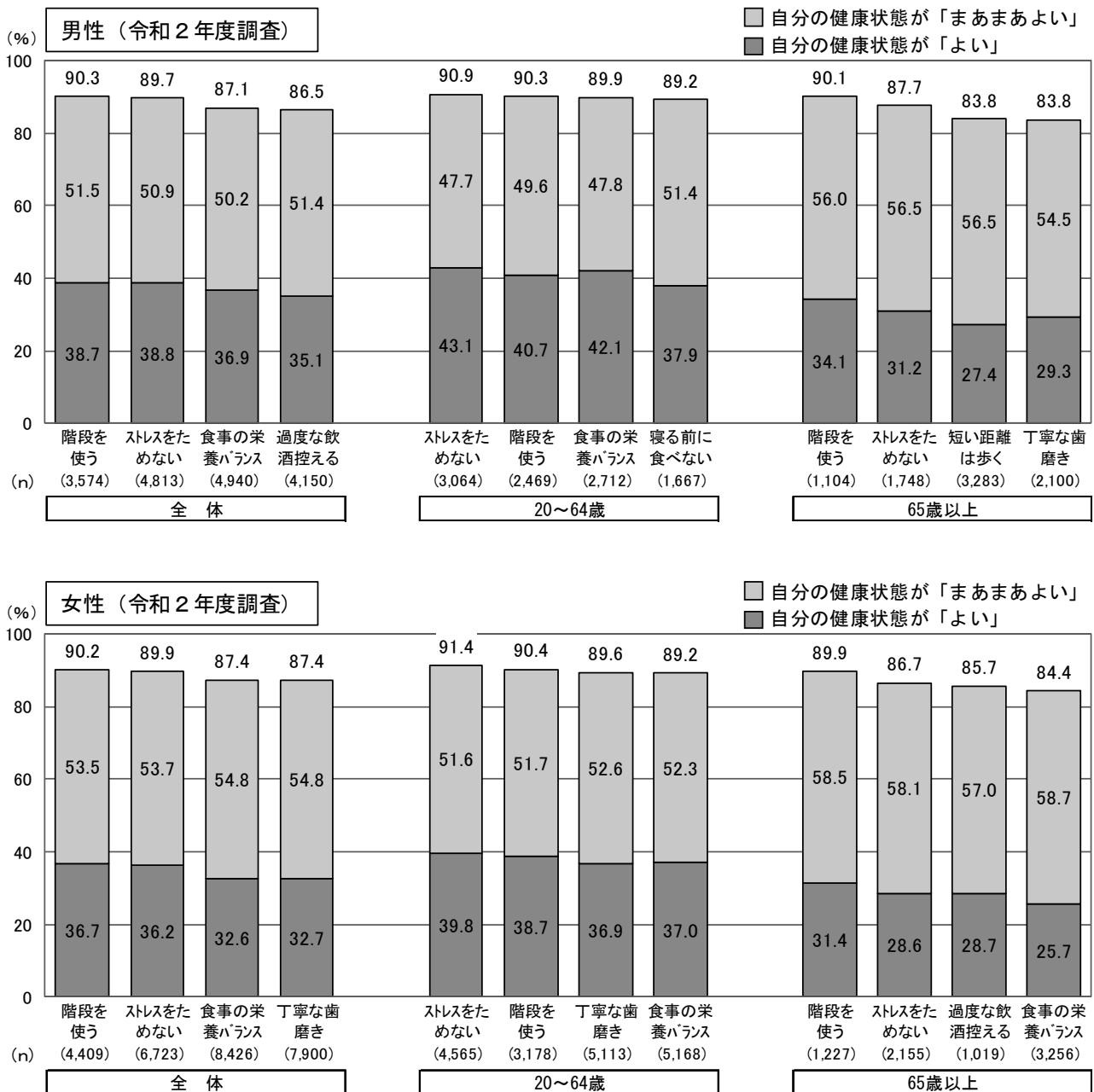
自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、負担感のない程度の健康の維持・増進のために実践している取組別にみると、都全体では、「エスカレーターやエレベーターの代わりに階段を使うようにしている」が90.2%と最も高く、次いで「気分転換などをしてストレスをため込み過ぎないようにしている」が89.8%、「栄養バランスを意識した食事をするようにしている」が87.2%、「丁寧な歯磨きを心がけている」が87.0%などとなっている。なお、20～64歳では「気分転換などをしてストレスをため込み過ぎないようにしている」が91.1%と最も高くなっている。

図40 自分の健康状態に対する意識(負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況/取組(上位4項目)別×都全体年齢2階級別)



自分の健康状態について「よい」と「まあまあよい」と回答した人の合計を、負担感のない程度の健康の維持・増進のために実践している取組別に男女別でみると、男女とも20～64歳では「気分転換などをしてストレスをため込み過ぎないようにしている」が最も高く、次いで「エスカレーターやエレベーターの代わりに階段を使うようにしている」となっている。また、65歳以上では「エスカレーターやエレベーターの代わりに階段を使うようにしている」が最も高く、次いで「気分転換などをしてストレスをため込み過ぎないようにしている」となっている。

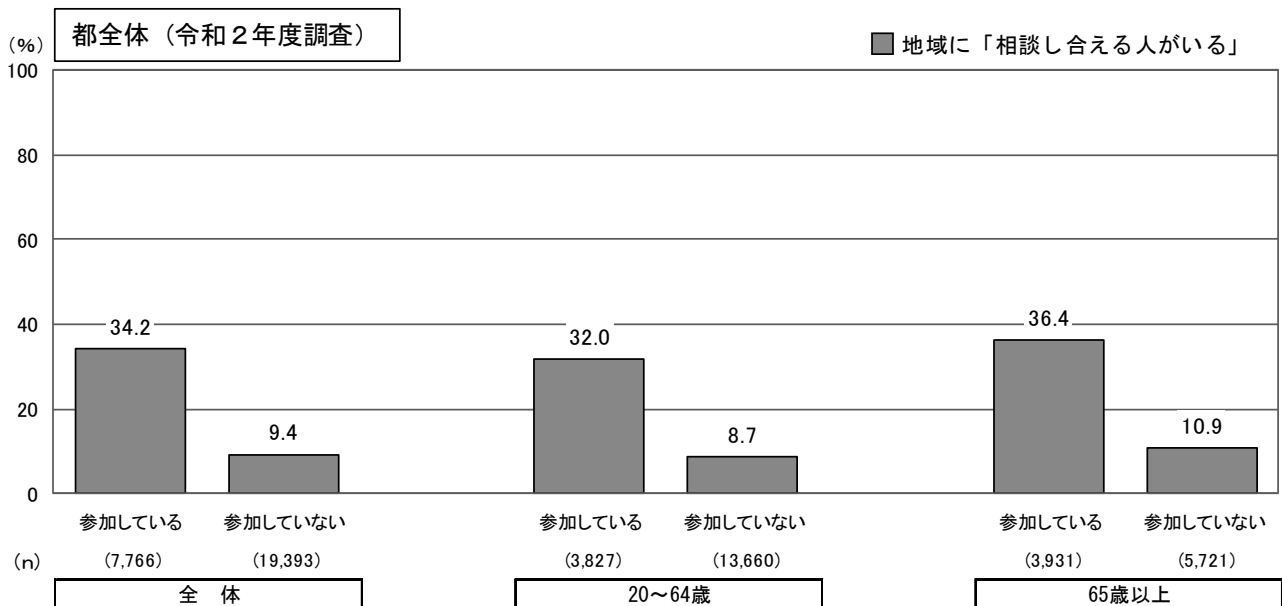
図41 自分の健康状態に対する意識（負担感のない程度の健康の維持・増進のための取組の実践状況／取組（上位4項目）別×性・年齢2階級別）



7 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別）（問2×問5）
 <地域に「相談し合える人がいる」人の割合は、地域のボランティア活動や趣味のグループに参加している人で高い>

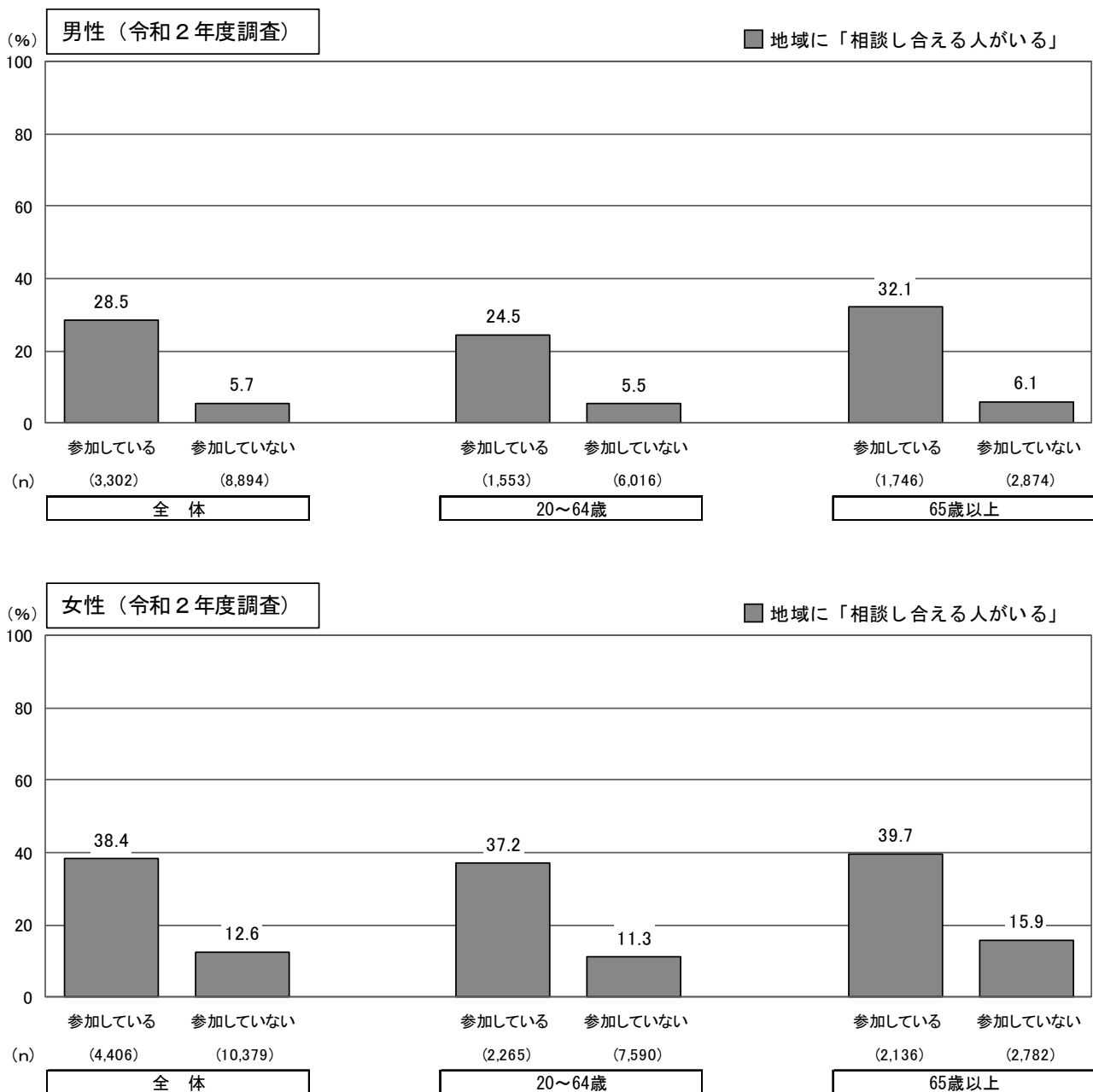
地域に「相談し合える人がいる」人の割合を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別にみると、都全体では、活動等に「参加している」（34.2%）が「参加していない」（9.4%）より24.8ポイント高くなっている。

図42 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×都全体年齢2階級別）



地域に「相談し合える人がいる」人の割合を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別に男女別で見ると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、活動等に「参加している」が「参加していない」より、地域に「相談し合える人がいる」人の割合は高くなっている。また、20～64歳、65歳以上とも、地域に「相談し合える人がいる」人の割合は、参加の有無にかかわらず、女性が男性より高くなっている。

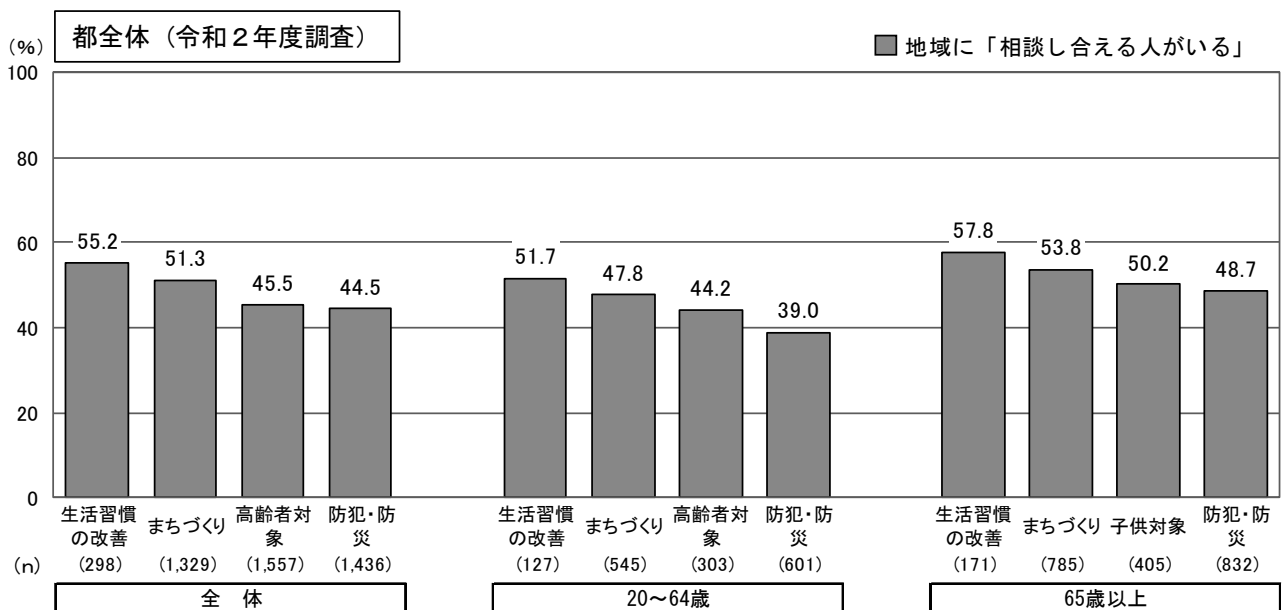
図43 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×性・年齢2階級別）



8 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況／活動別）（問2×問5）
 <地域に「相談し合える人がいる」人が参加している活動は、「食生活など生活習慣の改善のための活動」が最も高い>

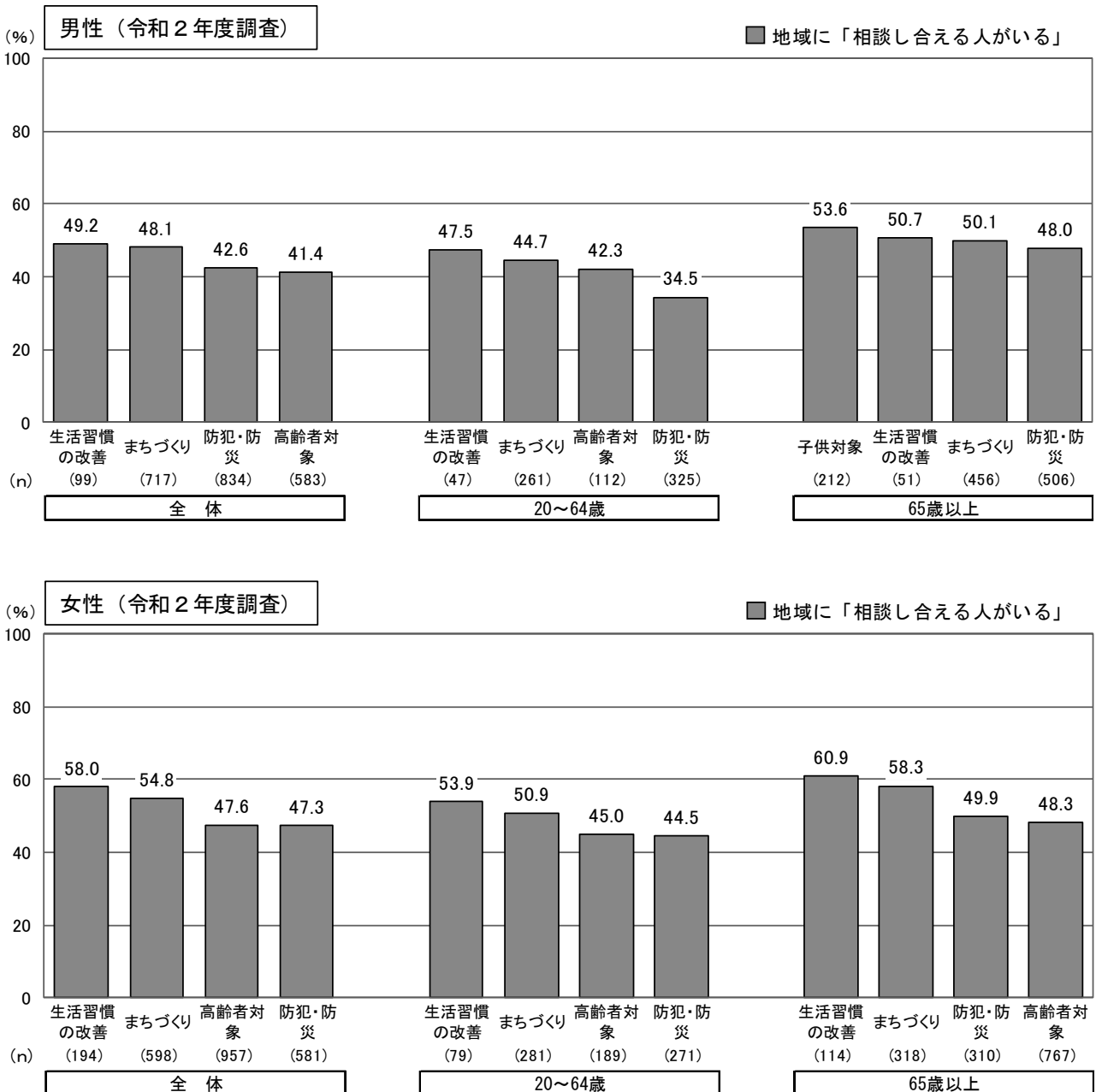
地域に「相談し合える人がいる」人の割合を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況の活動別にみると、都全体では、「食生活など生活習慣の改善のための活動」が55.2%と最も高く、次いで「まちづくりのための活動」が51.3%、「高齢者を対象とした活動」が45.5%、「防犯・防災に関係した活動」が44.5%となっている。

図44 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況／活動（上位4項目）別×都全体年齢2階級別）



地域に「相談し合える人がいる」人の割合を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況の活動別に男女別でみると、男性 20～64 歳、女性 20～64 歳、女性 65 歳以上では「食生活など生活習慣の改善のための活動」が最も高く、男性 65 歳以上では「子供を対象とした活動」が最も高くなっている。

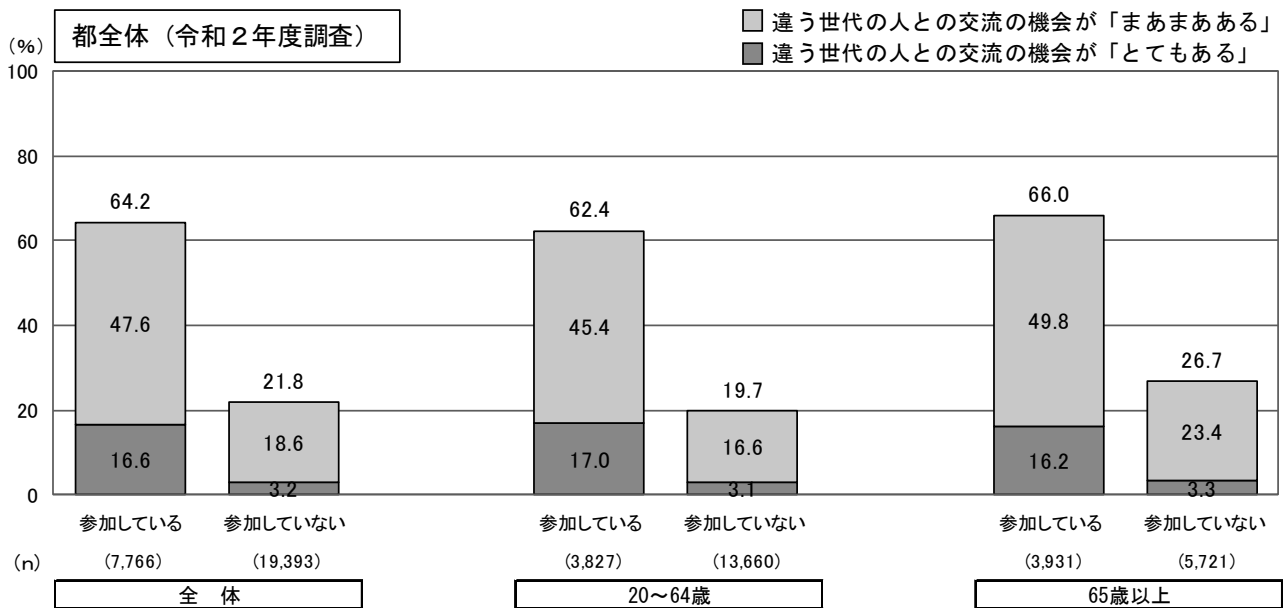
図 45 地域に「相談し合える人がいる」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況／活動（上位4項目）別×性・年齢2階級別）



9 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別）（問3×問5）
 <居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合は、地域のボランティア活動や趣味のグループに参加している人で高い>

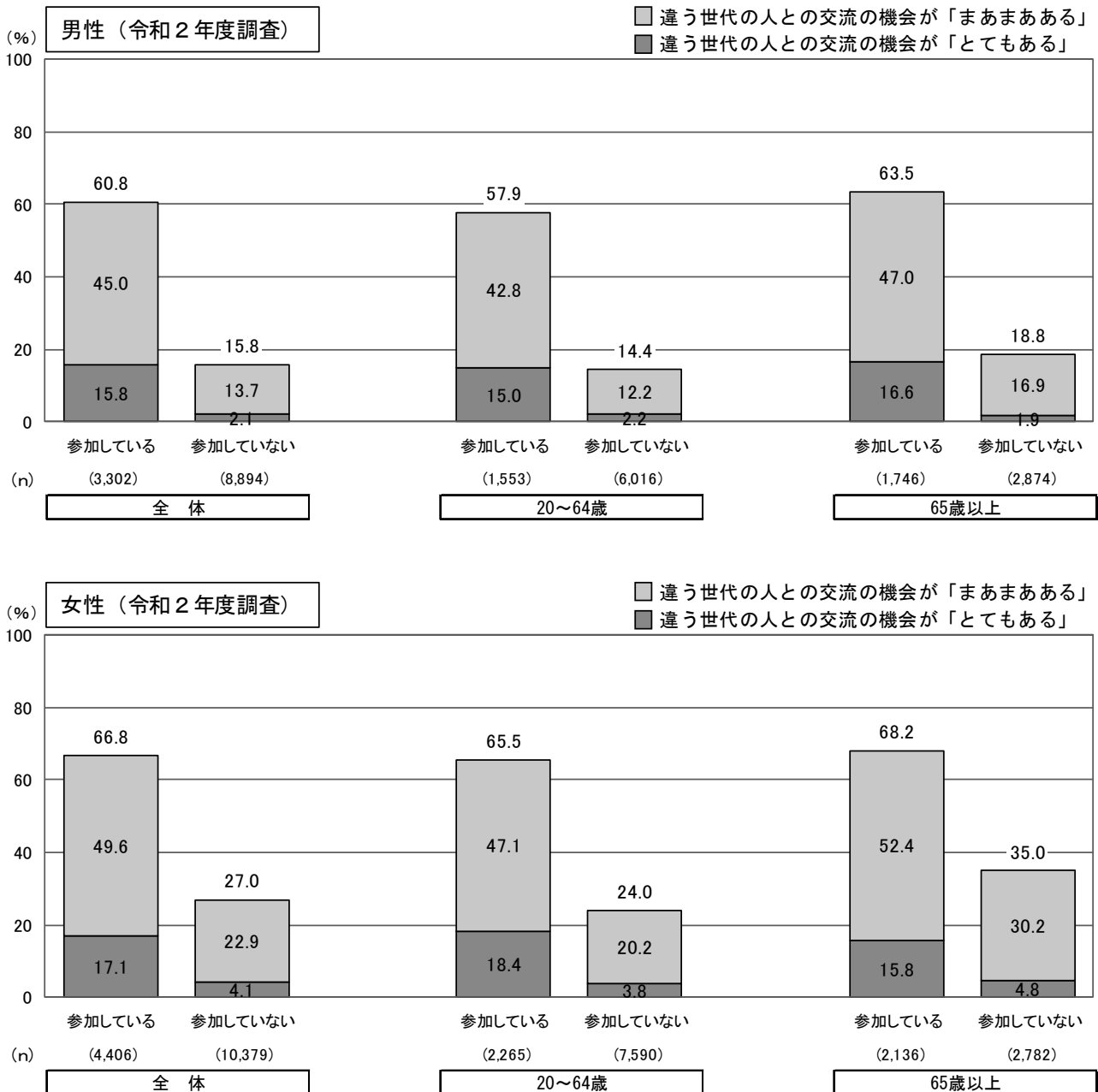
居住の地域における違う世代の人との交流が「とてもある」と「まあまあある」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別にみると、都全体では、活動に「参加している」（64.2%）が「参加していない」（21.8%）より42.4ポイント高くなっている。

図46 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×都全体年齢2階級別）



居住の地域における違う世代の人との交流が「とてもある」と「まあまあある」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、活動等に「参加している」が「参加していない」より、交流の機会が「ある」人の割合は高くなっている。また、20～64歳、65歳以上とも、交流の機会が「ある」人の割合は、参加の有無にかかわらず、女性が男性より高くなっている。

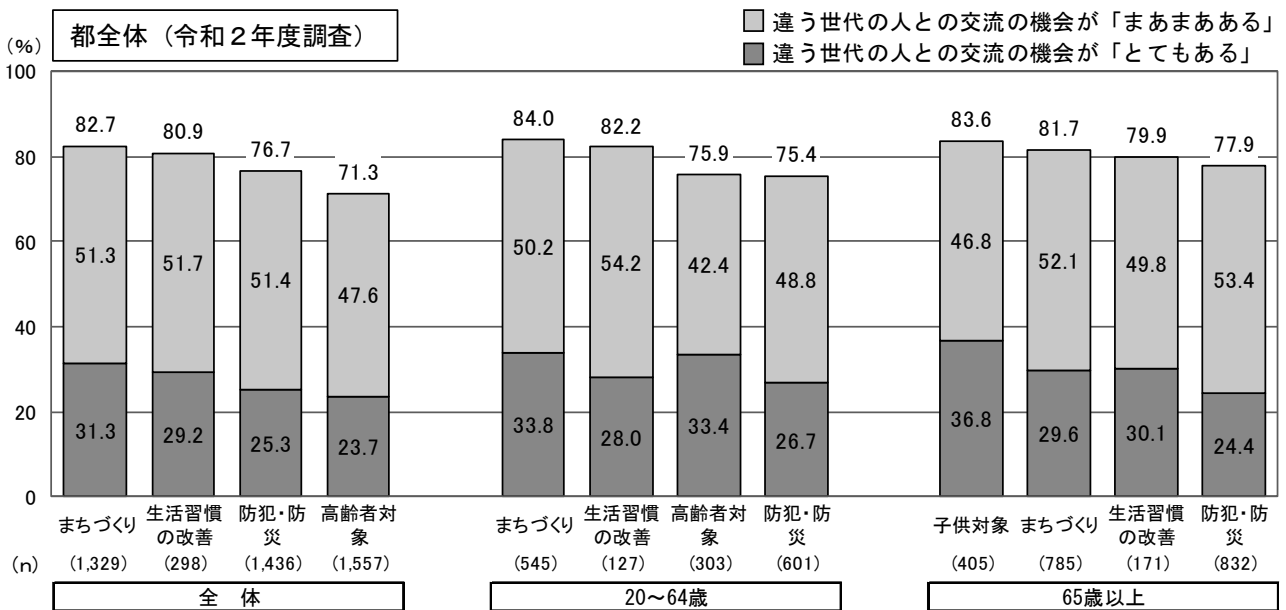
図47 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×性・年齢2階級別）



10 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況／活動別）（問3×問5）
 <居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の参加している活動は、「まちづくりのための活動」が最も高い>

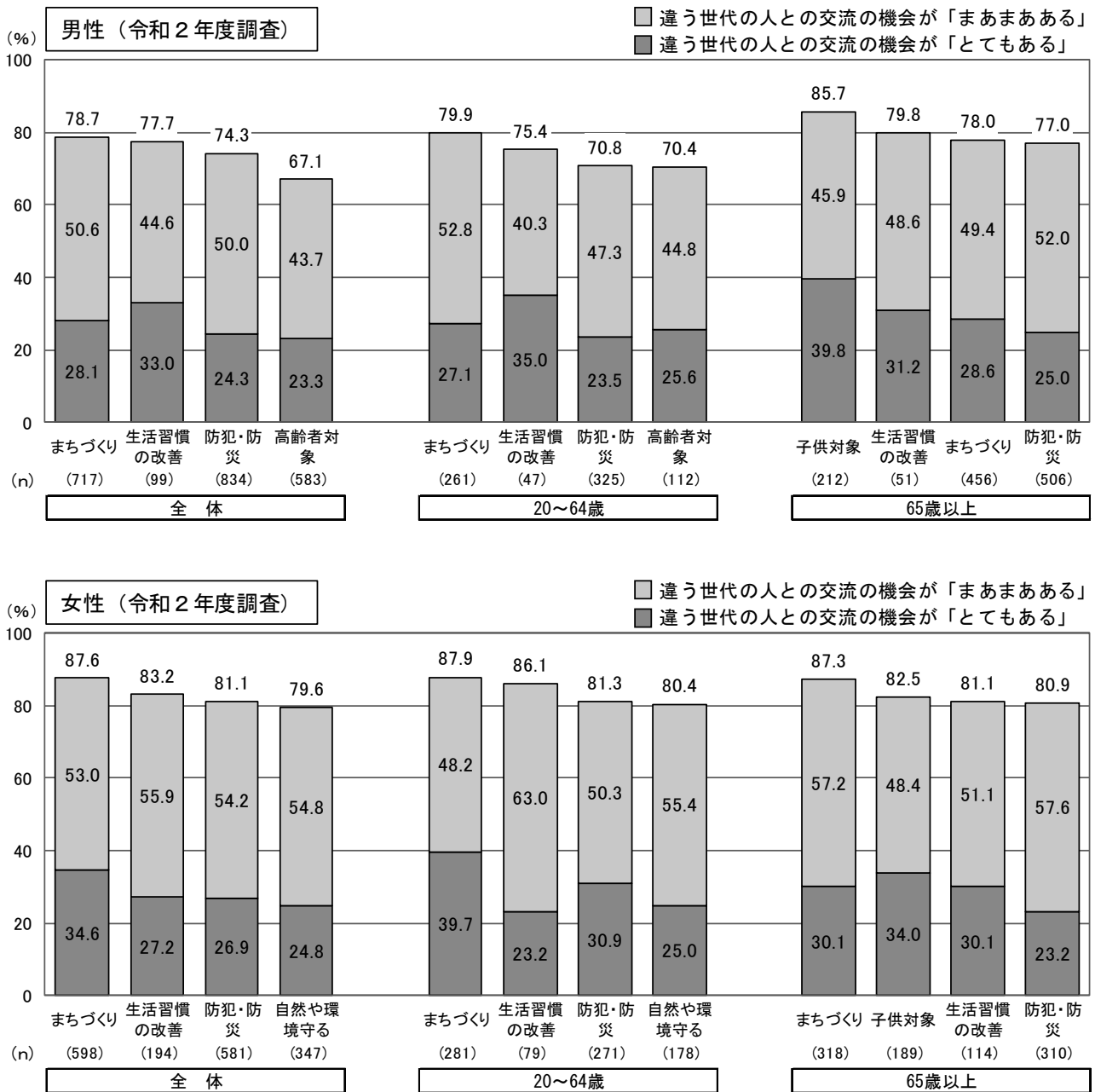
居住の地域における違う世代の人との交流が「とてもある」と「まあまあある」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況の活動別にみると、都全体では、「まちづくりのための活動」が82.7%と最も高く、次いで「食生活など生活習慣の改善のための活動」が80.9%、「防犯・防災に関係した活動」が76.7%、「高齢者を対象とした活動」が71.3%となっている。なお、65歳以上では「子供を対象とした活動」が83.6%と最も高くなっている。

図48 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況／活動（上位4項目）別×都全体年齢2階級別）



居住の地域における違う世代の人との交流が「とてもある」と「まあまあある」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況の活動別に男女別でみると、男性20～64歳、女性20～64歳、女性65歳以上では「まちづくりのための活動」が最も高く、男性65歳以上では「子供を対象とした活動」が最も高くなっている。

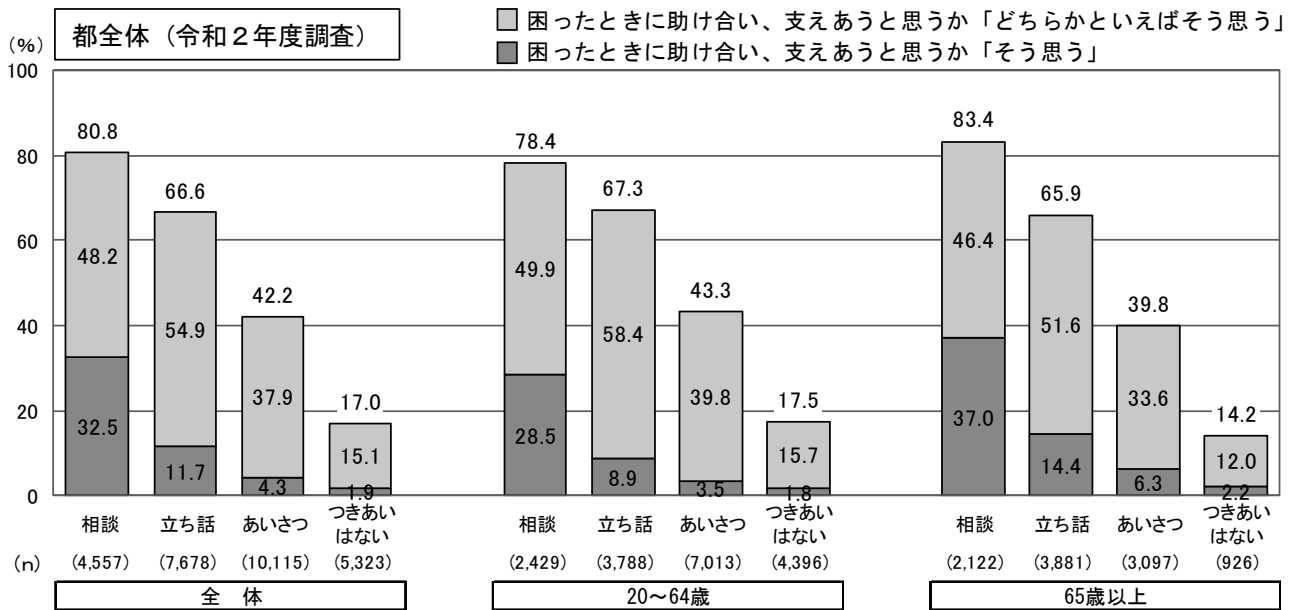
図49 居住の地域における違う世代の人との交流が「ある」人の割合（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別／活動（上位4項目）×性・年齢2階級別）



11 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域の人とのかかわり状況別）（問4×問2）
 <居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は、地域の人とのかかわりが強いほど高い>

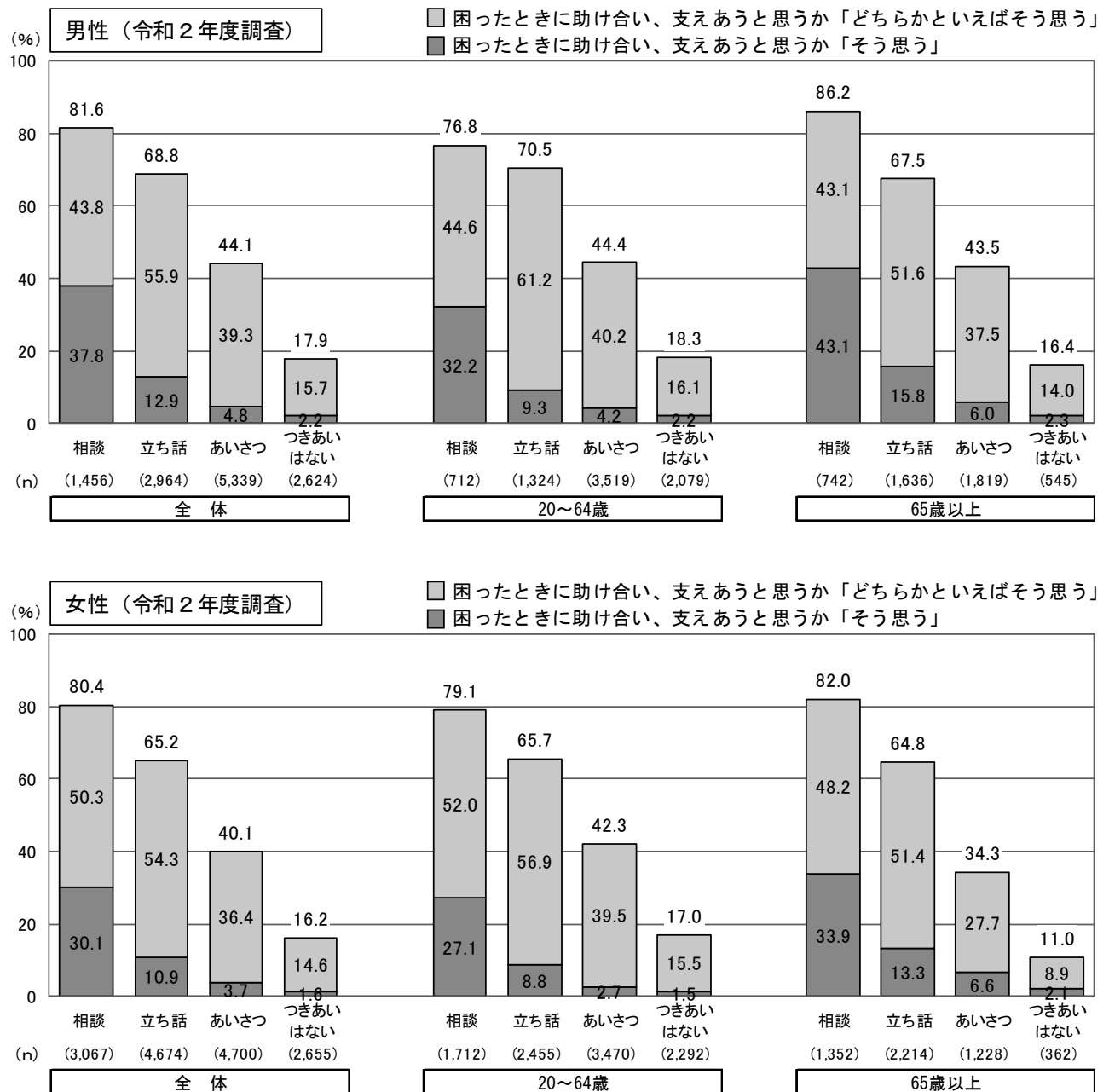
居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、地域の人とのかかわり状況別にみると、都全体では、「相談し合える人がいる」で80.8%、「立ち話をする人がいる」で66.6%、「あいさつをする人がいる」で42.2%、「つきあいはない」で17.0%と、かかわりが強いほど、居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は高くなっている。この傾向は65歳以上でより顕著にみられる。

図50 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域の人とのかかわり状況別×都全体年齢2階級別）



居住地に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、地域の人とのかかわり状況別に男女別でみると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、かかわりが強いほど、居住地は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は高くなっている。なお、男性65歳以上では「相談し合える人がいる」(86.2%)と「つきあいはない」(16.4%)との差が69.8ポイント、女性65歳以上では「相談し合える人がいる」(82.0%)と「つきあいはない」(11.0%)との差が71.0ポイントと、65歳以上でその差が大きくなっている。

図51 居住地に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域の人とのかかわり状況別×性・年齢2階級別）

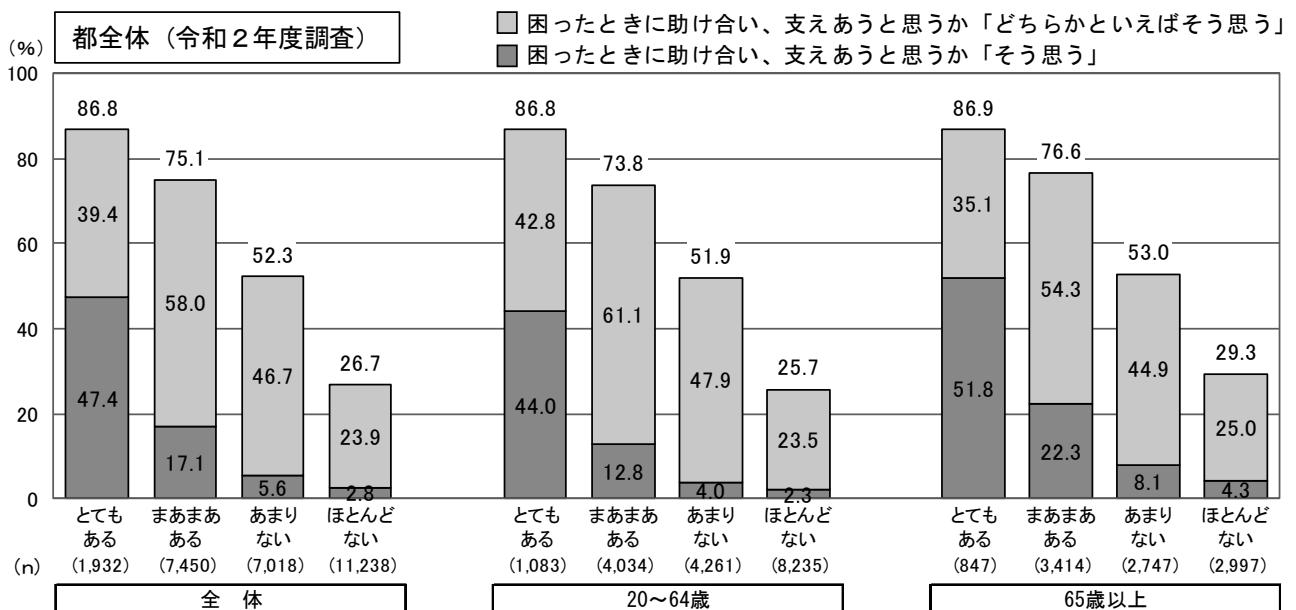


12 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別）（問4×問3）

＜居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は、地域で違う世代との交流の機会が多いほど高い＞

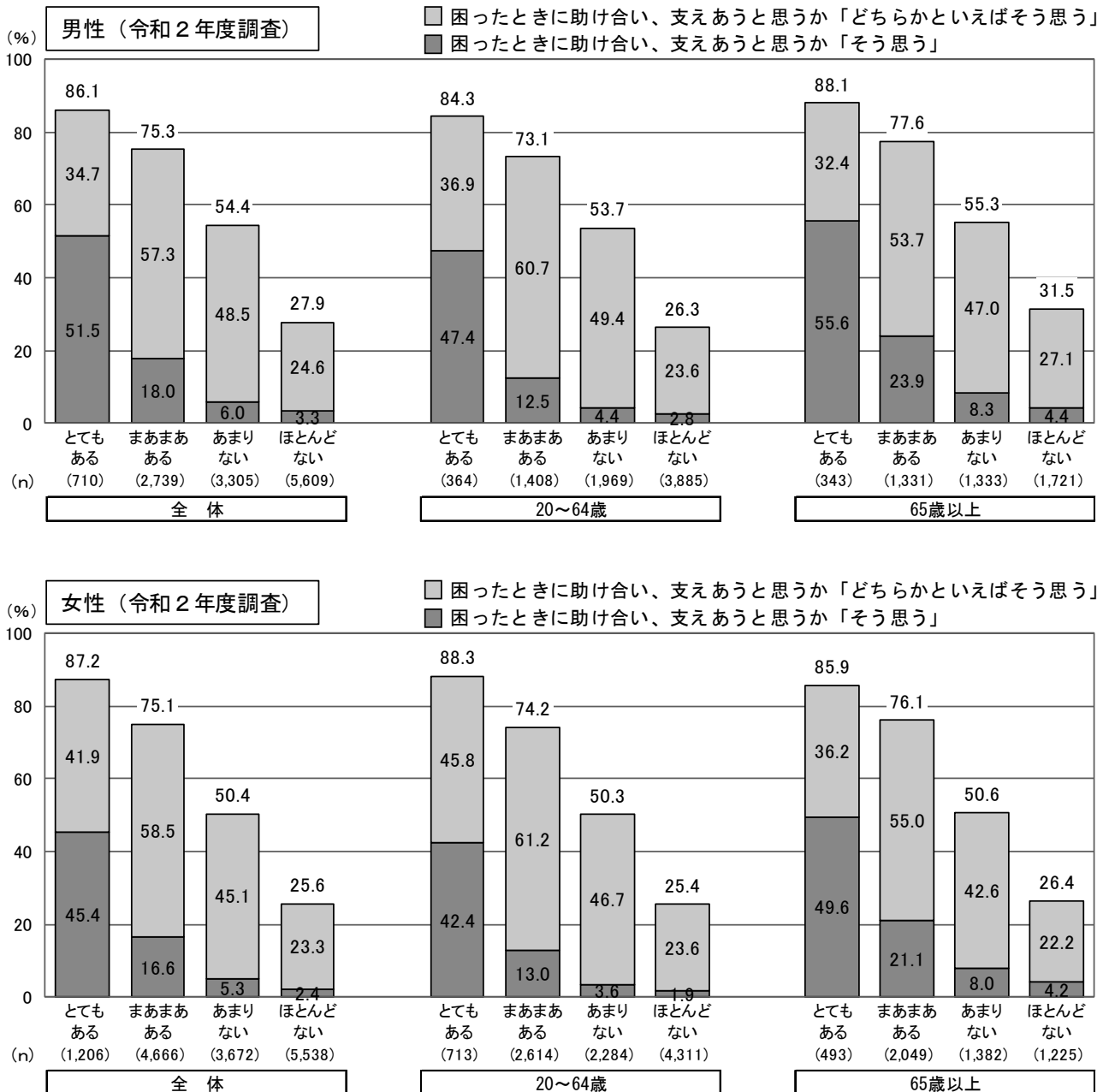
居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別にみると、都全体では、交流が「とてもある」で86.8%、「まあまあある」で75.1%、「あまりない」で52.3%、「ほとんどない」で26.7%と、交流の機会が多いほど、居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は高くなっている。

図52 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別×都全体年齢2階級別）



居住地に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別に男女別で見ると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、交流の機会が多いほど、居住地は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は高くなっている。なお、女性20～64歳で「とてもある」(88.3%)と「ほとんどない」(25.4%)との差が62.9ポイントと大きくなっている。

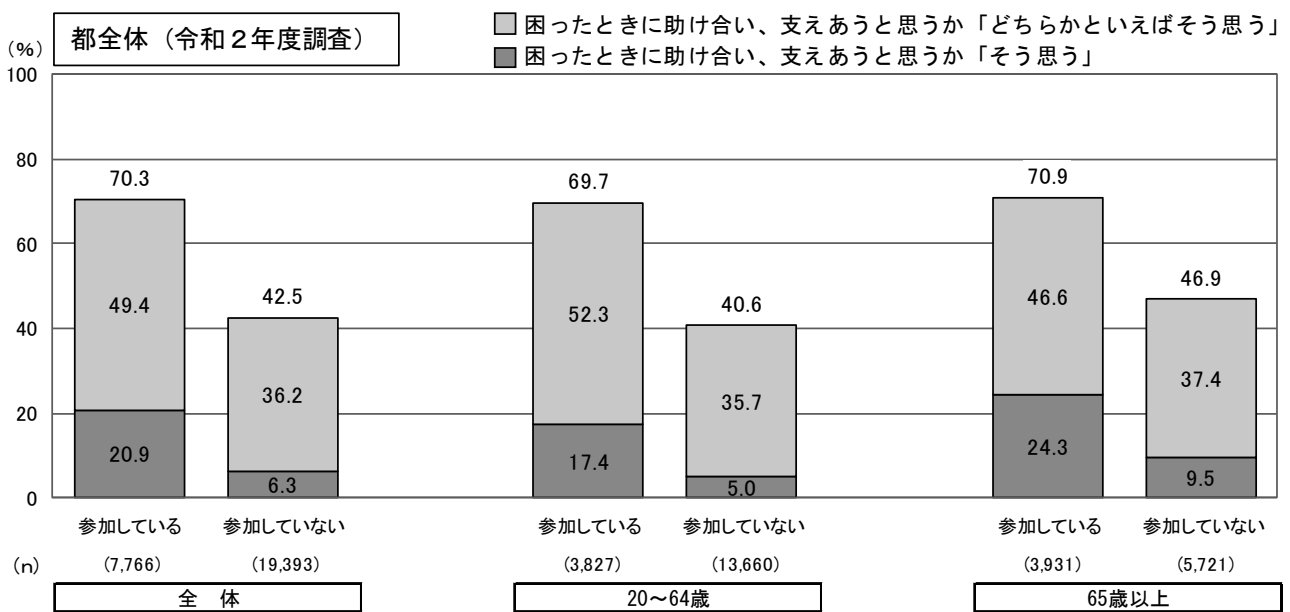
図53 居住地に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（居住の地域における違う世代の人との交流の機会の状況別×性・年齢2階級別）



13 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別）（問4×問5）
 <居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は、地域のボランティア活動や趣味のグループに参加している人で高い>

居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別にみると、都全体では、「参加している」（70.3%）が「参加していない」（42.5%）より27.8ポイント高くなっている。

図54 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×都全体年齢2階級別）



居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計を、地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別に男女別で見ると、男女とも20～64歳、65歳以上のいずれも、活動等に「参加している」が「参加していない」より、居住地域は困ったときに助け合い、支えあうと思う人の割合は高くなっている。

図 55 居住地域に対する困ったときの助け合い、支えあいの意識（地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況別×性・年齢2階級別）

